
僕の初恋

華菜恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の初恋

【Zコード】

N1681D

【作者名】

華菜恵

【あらすじ】

クラスのマドンナに話しかけることが出来ない僕に天使が舞い降りた時のお話。

クラスのマドンナこと後藤ルイ。

学校中の男子が憧れるも、話掛けられないでいる。

僕もその中の一人。

太陽の日差しを浴びると緑色にキラメク長く細い黒髪。
透き通るような白い肌。

吸い込まれそうになる大きな大きな茶色がかつた目。
それを強調するかの様に伸びる長いマツゲ。

細い体とは違ひ大きく豊かな胸。

そう、彼女は完璧。

僕の一日は彼女を見ることから始まつて妄想に妄想を膨らまし終わる。

いつもの様に彼女が通る交差点で待ち合わせをしているフリをしながら彼女を待つた。

なのに、彼女はいつまでも現れない。

僕は遅刻、ギリギリまで待つた。

彼女を見なくては一日は始まらない・・・。

僕が諦めて学校に向かおうとしたその時だ。

彼女は自転車を必死にござながら交差点を通り過ぎた。

いつもは歩いて登校して来る彼女。

自転車を必死にござ姿も悪くない。

僕の一日は始まつた。

すると彼女はヒターンして僕の目の前に自転車を止めた。

「乗りなよ。遅刻しちゃうよ。」

彼女はそうゆうと僕のカバンをカゴの中に入れた。
僕は何も言えないまま後ろに座った。

彼女は必死に自転車をこいだ。

僕を乗せて。

学校に着くと彼女は僕にカバンを手渡し教室に走って行つた。

僕は立ちすくんだまましばらく何も考えられなかつた。
そんなことをしていると、チャイムが鳴つた。

僕は遅刻した。

なぜ遅刻したかつて？

「天使が舞い降りたから。」

僕はこつてりと担任にしぼられたが、そんなことはどうでもいい。

それから卒業まで彼女と話すことはなかつた。

今日も交差点で彼女を待つ・・・。

彼女を見ないと僕の一日は始まらない。
それは今も昔も変わらない僕の天使。

(後書き)

彼女からの視点で書いた「私の初恋」出来ました。
そつちも読んで頂ければ嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1681d/>

僕の初恋

2010年12月2日16時11分発行